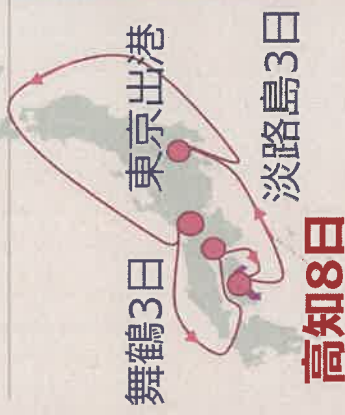


# 「世界青年の船」事業参加青年と日本の青少年による 私の町の課題解決プロジェクト

高知県



# テーマ1 全ての人が、いきいきと働けるまちづくり

## トピックA ジェンダー平等



高知県議会議員 下村 勝幸

「どうすれば日本の女性議員が増えるのか」  
を一緒に考えましょう

住民のニーズを吸い上げて行政サービスに反映する議員はやりがいのある仕事です。が、現実の議席は国政でも地方議会でも圧倒的にシニアの男性によって占められています。台湾で導入されたクオオクタータリー制の成果等を参考に「どうすれば日本の女性議員が増えるのか」をみなさんと考えたいと思います。



高知県立室戸高校1年生 黒岩 りの

クオオクタータリー制を導入して高知県の公立高校  
校長の女性比率をアップしたいです

室戸高校の校長先生は、これまでも男性ばかりです。先生に聞くと高知県の公立高校では、女性の校長先生は4人しかいないそうです。これは明らかか男女不平等です。そこで私は、第一段階の解決策として、「高知県の公立高校の女性の校長先生の比率を5年以内に20%、10年以内に30%にする」というクオオクタータリー制を導入すべきだ」と考えています。みなさん、何か実現可能ないアイデアはありませんか？



こうち男女共同参画センター「ソレレ」事務局長 竹内 里香

男女共同参画を広めていくためのよい啓発  
方法を考えてください

こうち男女共同参画センター「ソレレ」は、男女共同参画社会実現に向けた活動の拠点施設として「女性と男性の自立」と「女性の地位向上」を目的とした多彩な事業を展開しています。海外、県外から来訪されたみなさんには、是非、「みなさんの町で行われている男女共同参画の啓発方法をご紹介いただき、一緒によりよい啓発方法を考えたい」と思います。

## トピックB 共生社会の実現



社会福祉法人 小高坂更生センター木工部 部長 友村 正子

就労継続支援B型作業員の収入アップのための  
商品開発と販路開拓が一番の課題です

障害のある人が自立した生活を地域社会で営むことができよう支援しています。主力商品は就労支援A型作業員が製作する最高品質の「鳴子」で、よさこい祭りのトップチームにも愛用していただいています。「目下の課題は、軽作業を行う就労継続支援B型作業員が製作する木工商品の開発と販路開拓」です。彼らの収入アップにつながるアイデアや手法を一緒に考えてほしいと思っています。



高知県商工労働部雇用労働政策課主事 竹内 彩沙

企業トップや職場のワークライフバランス  
の意識を高める啓蒙方法が課題です

高知県では、働きやすい職場づくりに積極的に積極的に取り組む企業を「高知県ワークライフバランス推進企業」として約460社認証しています。認証の経緯は、トップダウンやボトムアップなど各社まちまちですが、共通しているのは問題意識の高さです。「どうすれば企業トップや職場の意識を高くすることができるのか」について、一緒に考えたいと思います。



高知大学総合人間自然科学研究科修士課程 杉尾 智子

地域の労働力不足を補いながら持続可能な  
町づくりを共創しましょう

日本には、外国人技能実習生の力を借りなければ地域産業が衰退するという現実があります。他方、一部の技能実習生たちが過酷な労働を強いられる現場があることも事実です。この二つの現実と事実を踏まえ「どうすれば、日本（高知）の地域の労働力不足を補い、住みつづける町づくりができるのか」、みなさんと共創したいと思っています。



### テーマ3 住む人が誇りを感じるまちづくり

#### トピックA 地域の歴史と伝統の継承



高知県立清水高校校長 市原 庸寛

「J万次郎の精神を継承し、移住者や観光客を地域外から呼び込みたいと思っています」

土佐清水市は、いかなる逆境下でも諦めず懸命にチャレンジしていった日本人最初の国際人ジョーン万次郎の出身地で、彼の精神は、私たちが目指すアイデンティティです。また2021年、土佐清水ジオパークが日本ジオパークに認定され、日本ジオパークネットワークにも正会員として加盟することができました。どうすれば、このようなポテンシャルを生かして、「地域外から観光客や留学生、移住者を呼び込めるのか」が土佐清水市の課題です。



土佐史談会会長 宅間 一之

「若い人に郷土史に興味をもってもらえるにはどうすればいいのか思案しています」

グローバル人材に必要な資質として郷土愛やアイデンティティがあります。近年では世界史と日本史を融合したグローバルという新しい視点で歴史を鳥瞰するカテゴリーも人気です。ともあれ郷土史は、いずれのカテゴリーにも密接に関係していて、その面白さが分かってくるとしめたものです。目下、私が直面している課題は、「若い人に、どうすれば郷土史に興味をもってもらえるのか」ということです。みなさん、お知恵をお貸しくください。



高知県立室戸高校1年 丸太 絢翔

「多感な青少年が、どうすれば自分の田舎町を好きになれるのか？」

室戸高校生の約80%が自分の町が好きではありません。理由は、モールやお洒落なカフェがないからです。幸い町は「世界ジオパーク」にも認定されていて、それなりの魅力はあるのですが、そんな自然の海岸も地元の高校生には大きな岩石の塊にしか見えません。それより、高知市の高校生がMacでデートをしているシーンを憧れます。「多感な青少年が、どうすれば自分の田舎町を好きになれるのか」が僕たちの課題です。

#### トピックB 魅力あるまちづくり



高知市 市長 岡崎 誠也

「図書館に隣接する空地の活用をどのようにするのかわからないまま決まりません」

高知市の大きな課題の一つが「オーテピア高知図書館西側にある市有地（西敷地）の活用をどのようにするのかわからないまま決まりません」です。西敷地は、教育ゾーンと商業ゾーンと観光・文化ゾーンが交差する場所で、広場機能や家族機能は必須の条件です。みなさんが「新しい視点で感じる西敷地の活用プラン」があれば是非教えてください。



高知大学4年生 仙頭 みなみ

「高知の商店街にあたらしいな」と思えるショップやカフェを教えてください

高知市の商店街は、郊外のショッピングモールの影響を受けて往来人数が減少しています。高知では、SWYのみなさんと商店街を散策したり、食事したりしながら、「高知の商店街にもこんなショップやカフェがあたらしいな」というようなアイデアをいただけたら嬉しいのです。3年前、コロナ禍でSWYに参加できなかったので、LYとしてSWYを楽しみたいと思います。



とさでん交通株式会社社長 樋口 毅彦

「環境にもやさしい路線バスや路面電車を市民のみなさんにもっと利用してほしい」

高知市民の足である路線バスや路面電車は、乗客の運賃と公的補助金で運営されています。利用者は年々減少し、会社は赤字続きで、ダイヤも縮小せざるをえないというのが現状です。このような状況は全国的なもので、全国課題とも言えます。「どうすれば、高知の路線バスや路面電車の利用者が増えるのか」について、みなさんと一緒に考えたいと思っています。

## テーマ5 自然をいかしたまちづくり

### トピックA 環境保護と観光



室戸市市長 植田 壮一郎

阿佐海岸鉄道DMV観光客誘致に必要な観光ルートの開発など課題が山積しています

大型定置網漁業の振興、海洋深層水の販路拡大、子育て家族への支援、DMV観光客誘致に必要な観光ルートの開発など、室戸市の課題は山積しています。これらの課題解決は、室戸市への移住人口の増加にもつながり、海の自然を生かした町づくりにも直結しています。その他、室内世界ジオパークを生かした観光客の誘致にも力を入れたと思っています。



高知県観光振興部国際観光課 伊藤 拓郎

**YOSAKOI DANCE**を高知で踊って、みなさんの国や地域に広めてください

よさこい祭りは、1953年に高知市で誕生した踊りで、高知最大の観光ツールです。近年は「祭りを一緒に祭るを作る」という視点から後片付けのゴミ拾いなど、踊子チームの環境意識も高くなりました。高知県は日本と世界への普及活動を行っています。SWYのみなさん、高知のステージで**YOSAKOI DANCE**を踊って、みなさんの国や地域に持ち帰って広めていただければ嬉しいです。



団体職員 竹内 優華

自然に優しい観光に直結する街路市の出店者を増やしたいと考えています

高知市の日曜市は、300年以上の歴史を有する日本最大規模の街路市です。以前は400店舗以上の出店がありましたが、近年では300店舗の出店しかありません。主な理由は出展者の高齢化による廃業です。街路市は、地産地消にも直結しており、環境保護と観光に失血する高知市の庶民文化です。私は、何とかして「**日曜市の出展者を増やしたい**」と思っています。

### トピックB 自然と寄り添う暮らし



高知県梶原町町長 吉田 尚人

自然豊かな山の町でウエルビーイングな生活を送るヒントを一緒に考えましょう

梶原町は四国カルスト台地の山々に包まれた糖野を清流がゆるやかに流れる四万十川源流の町です。自然再生エネルギーを活用したり、地産地消しながら多くの住民がストレスが少ない生活をしています。町の人口は3228人で、内約200人がワークライフバランスを求めての移住者です。「**ウエルビーイングの生活を送るヒント**」を梶原で一緒に考えましょう。



高知市民の健康増進のために工石山への登山者数を増やしたいのですが...

工石山青少年の家は人気があり、春休みやGW、夏休みなどは満室になります。冬は宿泊客が少ないので、みなさんに利用してもらえればうれしいです。目下の課題は、目の前にそびえる「**工石山への登山者数が少ない**」ことです。冬でも毎日10人くらいは登山しているのですが、高知市民には、健康増進のためにもっとたくさん登山してほしいです。



ゆずはら地域おこし協力隊（林業・森林技術）荒木 俊充

「人間が森林、自然と寄り添う暮らしの在り方」をみんなで考えたいと思います

梶原町では古くから祈りの場としても崇められておりました。私たちは、もう一度森林の価値を見直したいと考えています。町では「梶原町森林再生プロジェクトReMORI」を通じて未来の森林づくりをしていく仲間を募集しています。この先「**人間が森林、自然と寄り添う暮らしの在り方**」をみんなで考えたいと思います。

